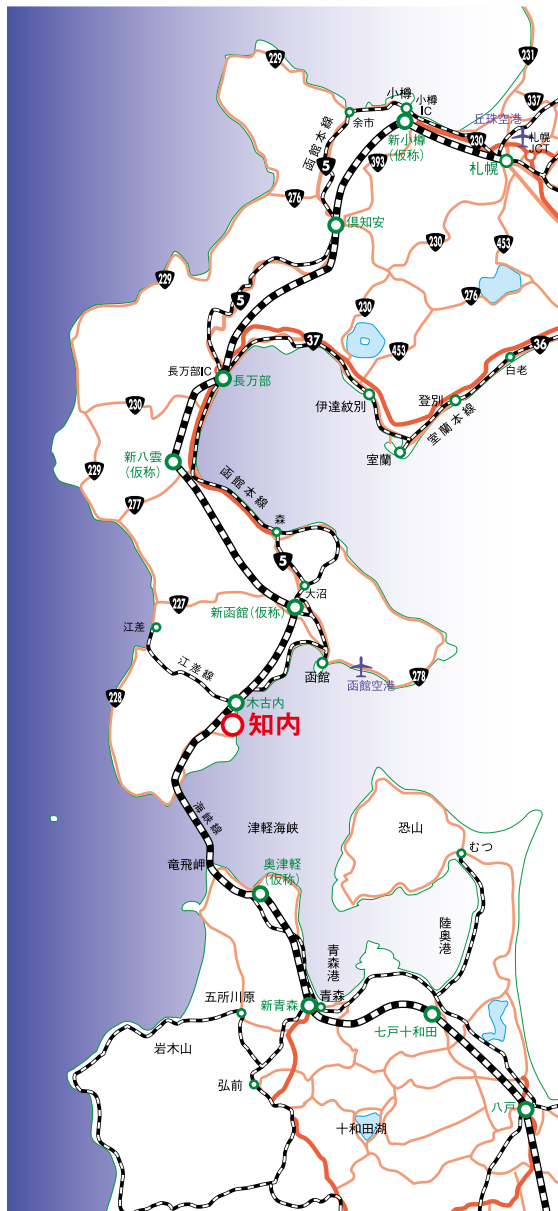


知内町は渡島半島の南西に位置し、木古内町、福島町、檜山管内上ノ国町と接している青函トンネル北海道側出入口の町です。鎌倉時代に甲斐の国イハラ郡領主・荒木大学が来道し、知

内川で砂金掘りをしたと伝えられるなど、古い歴史を持っています。町名の由来はアイヌ語の「チリ・オチ」(鳥いるところ)。知内は鷹の産地として有名で、松前藩が徳川将軍家に鷹狩り用に献上する15羽の鷹のうち、半数以上は知内で捕獲した年もあったと言われています。明治4年、旧松前藩士田中明定が、館県庁から第10区(知内・福島両村全域にわたる)初代戸長に任命され就任しました。これが知内の自治の始まりです。その後、農業や漁業が活況を見せ、これに伴い人口が増加。1906(明治39)年に小谷石を合併して知内村が誕生しました。以降、鉄道が開通するなど産業や暮らしの基盤が着実に整備され、1967(昭和42)年に町制施行し、今日を迎えています。2011年11月、知内町自治制施行140周年記念式典を行いました。

青函トンネルを抜けると そこが知内町



北海道でもっとも 過ごしやすい気候

暖流が流れる津軽海峡に面した知内の気候は温和で、夏の最高気温は30℃前後、冬の最低気温は-10℃前後を年数回記録する程度で、北海道でもっとも過ごしやすい地域のひとつとなっています。積雪は12月から3月まで観測されるものの量は少なく、十分に整備された本町の除雪体制と合わせ、雪に関する心配はありません。

<位置>

- 緯度 北緯41度35分
- 経度 東経140度25分
- 面積 196.67km²

<交通>

- 自動車 函館から約42km(約60分)
- JR海峽線 函館駅～木古内駅(約35分)
木古内駅から路線バス17分
- 路線バス 函館～知内(107分)



琥珀製垂飾

原寸大 シリーズ

3

日本最古の副葬品

1万4000年前の日本最古の墓跡から出土した琥珀製垂飾やカンラン岩製垂飾などが1991(平成3)年、考古学上たいへん貴重な資料であることが認められ、国の重要文化財に指定されました。ともにユーラシア大陸産出のものとも推測されており、交流があったことをうかがわせるものとなっています。



カンラン岩製垂飾

北海道知内町

〒049-1103 上磯郡知内町字重内21-1
TEL 01392(5)6161 FAX 01392(5)7166
ホームページのURL <http://www.town.shiruiuchi.hokkaido.jp>

発行/2012年 知内町 ● 企画/株式会社 ぎょうせい